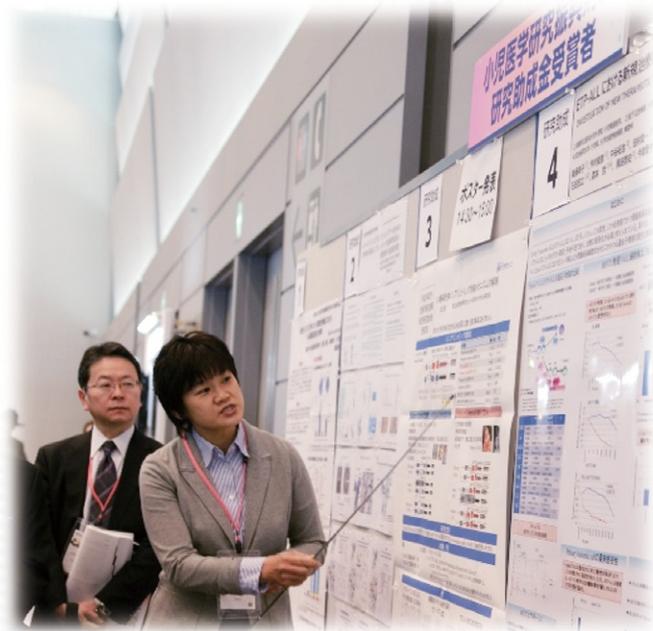


global standard をめざして



研究助成事業【ポスター発表】



普及啓発活動

平成27年度 研究助成事業・優秀論文アワード・海外留学フェロースhip 選考結果

(詳細2面)

留学体験記／市民公開講座「気になる子どもの支援 —発達特性・発達障害の理解と支援—」

(詳細3面)

◆ 特別寄稿

理事に就任して



理事

奥山 真紀子

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
副院長・こころの診療部長

近年、小児科からの研究成果が少なくなっているという声を聞くことが多くなっています。研究より臨床という意識の高まりも背景にあるのでしょうか。しかし、臨床を発展させ、子どもの心身の健康増進を図るためには、目の前にある疑問について研究し、解明し、それを他者と共有するという営みが必要であり、不可欠です。ただ、その営みには知力と財力が必要となります。意識のある小児医療者を支えて、若手研究者の海外留学の助成や研究助成などを行って来た当財団に理事として、子どものために小児医療の研究の発展に尽力できることは大きな喜びです。

特に、子どものメンタルヘルスを専門としてきた私にとって、身体のみならず心の健康増進のための研究の重要性に着目して下さった鴨下重彦初代理事長には多大な感謝の念を抱いておりました。メンタルヘルス関連の研究はその手法が整っていなかったり、研究の歴史が浅い等の問題があり、なかなか研究資金を得ることが困難な分野です。研究を志すものの、その難しさに折れそうな心を当財団の評価や助成によって認めてもらうことが出来て、力を得た仲間も少なくありません。

子どもは心身が未分化であり、こころと身体の両方を全体として診ていく眼が必要だと思います。一つ一つの研究は細かい分野であっても、当財団が全体として子どもの発達を支援していく姿勢であり続けられるように皆様と共に努力していきたいと願っております。どうぞ、よろしくお願いたします。

平成27年度交付対象者・受賞者が下記のとおり決定いたしました。

研究助成金

(1) 小児科領域全般研究事業

黒木 俊介	徳島大学疾患酵素学研究センター 応用酵素・疾患代謝研究部門・助教	後天的ゲノム修飾による性決定プログラム分子基盤の解明 副題:ヒストン脱メチル化酵素Jmjd1ファミリーによるエピジェネティックな性決定機構の解析
吉丸耕一郎	九州大学大学院医学研究院 生殖発達医学講座・小児外科学分野・医員	ヒト乳歯幹細胞を用いたヒルシスブルグ病及びその類縁疾患の新規治療の開発
富田 江一	高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門 解剖学講座・准教授	小児の大脳皮質の「形成メカニズム」とその形成障害が発達障害・精神疾患になる 機序「臨床分子病態」の解明 副題:大脳皮質の形成プロセスおよび形成障害に焦点を当てるモデル研究
竹田 誠	国立感染症研究所・部長	ヒトメタニューモウイルス性肺炎病態生理の分子レベルでの解明 副題:ヒトメタニューモウイルス感染症の治療法、診断法開発への基盤研究
齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野・教授	ヒトパレコウイルス3型感染症に対する特異的治療薬の検討
西村 順裕	国立感染症研究所ウイルス第二部・主任研究官	小児に急性弛緩性麻痺をおこすエンテロウイルスの細胞侵入機構の解明 副題:感染受容体の検索と同定
川上 浩司	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻薬剤疫学・教授	学校健診情報の個人への可視化を通じた小児期の生活習慣病予防に関する研究
江川 潔	北海道大学大学院医学研究科 小児科学分野・助教	自閉症スペクトラム、アンジェルマン症候群の認知機能障害メカニズムと治療法の探索 副題:海馬記憶におけるGABA作動性持続抑制の役割に注目して
金井 孝裕	自治医科大学小児学講座・講師	小児特発性ステロイド感受性ネフローゼ症候群の病態解明への挑戦 副題:転写因子STAT5Bからの戦略的アプローチ
村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻放射線動物学研究室・准教授	小児を対象とした簡便な食物アレルギー診断技術の開発

(2) ジャパンワクチン感染症及び感染症予防ワクチン研究事業

加藤 哲久	東京大学医科学研究所・助教	単純ヘルペスウイルスワクチンのプラットフォーム創成 副題:完全非増殖型HSV粒子大量産生システムの確立
齋藤 達哉	徳島大学疾患酵素学研究センター シグナル伝達と糖尿病研究部門・教授	感染症予防ワクチンの効果を高める新規アジュバントの開発
酒井 宏治	国立感染症研究所 ウイルス第三部・主任研究官	ヒトRSウイルス感染症及びヒトメタニューモウイルス感染症のマウス重症化 モデルの作出
細井 賢二	順天堂大学小児思春期発達・病態学講座・ 大学院生	小児炎症性腸疾患患者におけるHBワクチン接種による抗体獲得率についての前方 視的評価研究
真下 陽一	千葉大学大学院医学研究院公衆衛生学・ 技術職員	感染症対策を目的としたインフルエンザ菌および肺炎球菌侵襲株の全ゲノムシー ケンスデータベースの構築
柴村 美帆	国立感染症研究所ウイルス第一部・協力研究員 (東京大学大学院医学系研究科生殖加齢発達 医学専攻小児科学教室・医学博士課程1年)	リコンビナントLC16m8ワクシニアウイルスを由来とする サイトメガロウイルスワクチンの開発
伊従 光洋	金沢大学医薬保健研究域薬学系・准教授	マリアワクチン開発を基盤とした新規感染症用ワクチンプラットフォームの創出 副題:非感染性バキュロウイルスナノ粒子ワクチンシステムの開発研究

優秀論文アワード

(1) 小児医学研究振興財団アワード

富田 陽一	公立相馬総合病院小児科・ 福島県立医科大学小児科学講座 (現:東京女子医科大学循環器小児科)	小児の東日本大震災に関連したストレス症状 日本小児科学会雑誌2015;119(6):970-976
山岡 祐衣	筑波大学医学医療系 ヘルスサービスリサーチ研究室	Child deaths with persistent neglected experiences from medico-legal documents in Japan Pediatrics International 2015; 57(3): 690-695

(2) 日本イーライリリーアワード

鈴木 浩太	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所知的障害研究部	自閉症スペクトラム児(者)をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究 脳と発達 2015;47(4):283-288
太田 秀紀	兵庫県立こども発達支援センター小児科 (現:西宮市立こども未来センター小児科)	乳幼児健診を活用した自閉症スペクトラム障害児早期発見の試み 子どもの心とからだ 2015;24(1):77-83

海外留学フェローシップ

(1) 日本イーライリリー海外留学フェローシップ

熊崎 博一	福井大学子どものこころの発達研究センター (現:金沢大学子どものこころの発達研究センター)	小型ロボットを用いた介入が及ぼす自閉スペクトラム症児の脳内ネットワーク変化の fMRIによる同定
-------	--	---

(2) ジャパンワクチン海外留学フェローシップ

森谷 邦彦	宮城県立こども病院血液腫瘍科	慢性皮膚カンジダ症(chronic mucocutaneous candidiasis:CMCD)患者家系の エクソーム解析と機能解析
-------	----------------	--

留学体験記



北海道大学
大学院医学研究科
小児科学分野・助教
江川 潔

ボストン留学報告

平成24年度日本イーライリリー海外留学フェローシップのご援助をいただき、2012年1月から2014年6月まで、Massachusetts General Hospital (MGH) 神経科、Dr. Kevin Staleyのラボに留学させていただきましたので、御礼かたがたご報告申し上げます。

Dr. Kevin StaleyはMGH小児神経科のチーフを務めつつ、主に抑制系の神経伝達機構について多くの業績を残してきた先生です。彼のリーダーシップのもと、GABA作動性シナプス伝達に強いかわりを持つ細胞内Cl⁻濃度の調節機構について、2光子顕微鏡によるイオンイメージング法という最新の方法を用いて検討する機会を得ました。2光子顕微鏡は大変高価で、3つのラボ約20人が共用で使用しておりましたので、割り当てられる使用枠は週に2-3時間という状況でした。仕方がないので、ボスに許可を得て夜ラボにきて午前中に帰るといふサイクルで仕事をしました。小児科医なら日常的な感覚と思いますが、向こうにはそのような状況で「じゃあ夜に仕事をしよう」と発想する人はだれもいないので、夜中実験し放題、他の人の何倍も効率よく実験できて、ボスには大層喜ばれました。論文は*サイエンス誌に受領され、この時ほど「日本で小児科医をやっていたよかった」と思ったことはありません。

留学前も4年ほど基礎の教室いたこともあり、経済的に大変厳しい状況でしたので、今回いただいた助成は「恵みの雨」でした。本当に、ありがとうございました。細胞神経生理の実験は、実験台の前に長時間座って気合と根性で生データを得る、という仕事にどうしてもなりますので、臨床をやりながら実験するにはなかなか難しい分野です(とても面白いのですが)。この留学で得た細胞イメージングという手法はこれまでにこなってきたパッチクランプ法などの電気生理学的手法に比べて比較的とつきやすく、「これなら若い人が臨床やりながらでも実験できるかな」と、これからの方向性を考えるうえでもおかげさまで非常に有意義な留学となりました。現在、北海道大学小児科にもどり、留学の経験を生かして疾患モデルマウスを用いた実験を立ち上げているところです。やりたいことを好きなようにやらせていただいております、ひとえに身近にいる先生がたのご理解とご協力の賜物と、この場を借りて御礼申し上げます(見てくださっているかわかりませんが…)。

最後に若手の先生方へ。小児科医としてのトレーニングを積んでいれば、何があっても路頭に迷うことはありません。これは自分の力でつかんだとても大きなアドバンテージです。遠慮することなくこのアドバンテージを生かして、どんどん思い切ったことに挑戦する人が増えるといいなと思います。末尾となりましたが小児医学研究振興財団の今後の益々のご発展をお祈りし、ご報告とさせていただきます。



留学前も4年ほど基礎の教室いたこともあり、経済的に大変厳しい状況でしたので、今回いただいた助成は「恵みの雨」でした。本当に、ありがとうございました。細胞神経生理の実験は、実験台の前に長時間座って気合と根性で生データを得る、という仕事にどうしてもなりますので、臨床をやりながら実験するにはなかなか難しい分野です(とても面白いのですが)。この留学で得た細胞イメージングという手法はこれまでにこなってきたパッチクランプ法などの電気生理学的手法に比べて比較的とつきやすく、「これなら若い人が臨床やりながらでも実験できるかな」と、これからの方向性を考えるうえでもおかげさまで非常に有意義な留学となりました。現在、北海道大学小児科にもどり、留学の経験を生かして疾患モデルマウスを用いた実験を立ち上げているところです。やりたいことを好きなようにやらせていただいております、ひとえに身近にいる先生がたのご理解とご協力の賜物と、この場を借りて御礼申し上げます(見てくださっているかわかりませんが…)。

最後に若手の先生方へ。小児科医としてのトレーニングを積んでいれば、何があっても路頭に迷うことはありません。これは自分の力でつかんだとても大きなアドバンテージです。遠慮することなくこのアドバンテージを生かして、どんどん思い切ったことに挑戦する人が増えるといいなと思います。末尾となりましたが小児医学研究振興財団の今後の益々のご発展をお祈りし、ご報告とさせていただきます。

* 江川先生のご論文は、Science VOL 343に掲載されています。Local Impermeant Anions Establish the Neuronal Chloride Concentration
J.Glykys,V.Dzhala,K.Egawa,T.Balena, Y.Saponjian,K.V.Kushibhotla,B.j.Bacskai,K.T.Kahle,T.Zeuthen,K.J.Staley Science 343,670-675(2014).

平成28年度 市民公開講座

入場無料

「気になる子どもの支援 — 発達特性・発達障害の理解と支援 —

日時 ● 平成28年9月4日(日) 13:30~16:10 場所 ● 大田区産業プラザPiO コンベンションホール(4階)

主催：(公財)小児医学研究振興財団/共 催：(公社)日本小児科学会

後援：厚生労働省(申請中)・大田区・大田区教育委員会・(一社)大森医師会・(一社)蒲田医師会・(一社)田園調布医師会
(公社)日本小児科医会・(公社)日本小児保健協会・(一社)日本小児精神神経学会・(一社)日本小児心身医学会・

(公財)日本学校保健会・(一社)日本学校保健学会・(一社)日本保育保健協議会・(公社)日本産婦人科医会・(公財)母子衛生研究会

プログラム(予定)敬称略

司会：奥山 真紀子【国立成育医療研究センター副院長・こころの診療部長】

講演①：澤 健 司【大田区福祉部発達支援担当課長】……………「発達障がいに対する大田区での取り組み」

講演②：宮本 信也【筑波大学特別支援教育センターセンター長・(一社)日本小児精神神経学会理事長】
……………「発達特性への気づきと発達障害への理解」

講演③：小枝 達也【国立成育医療研究センターこころの診療部長】……………「子どもの学習障害の早期発見と介入」

講演④：杉山 登志郎【浜松医科大学児童青年期精神医学特任教授】……………「発達障害における二次障害とその対応」

パネルディスカッション

御 礼

賛助会員及び多くの協賛企業・寄附者の皆様のご支援により、平成27年度は小児医療研究に携わる23名の研究者に研究・留学費の支援、優秀論文アワードの授与を行いました。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

当財団の賛助会費・寄附金は、確定申告の際、所得控除または税額控除を受けられます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二	衛藤 義勝	金子堅一郎	酒井 規夫	田代 雅彦	早坂 清	丸山 博	横山 義正	脇口 宏
安次嶺 馨	遠藤 文夫	金原 洋治	坂田 和信	田中 篤	原 寿郎	三池 輝久	吉岡 和之	和田 和子
東 寛	小穴 慎二	加納 芳郎	佐久間弘子	田中 英高	原 正守	水谷 修紀	吉岡三恵子	渡邊 信雄
熱田 裕	老田 礼子	鴨下 和子	佐々木 望	玉井 浩	春田 恒和	南沢 享	吉田 康子	渡辺 博
雨宮 伸	尾内 一信	河西 敬世	四方あかね	田村喜久子	日暮 眞	宮島 祐	吉田ゆかり	渡部 礼二
鮎沢 衛	大賀 正一	河西 紀昭	重松 陽介	田村 正徳	平尾 敬男	宮代 英吉	芳野 信	
新垣 義夫	大川 洋二	神崎 晋	柴田瑠美子	千田 勝一	平松公三郎	麦島 秀雄		
荒川 浩一	大澤真木子	貴田岡節子	嶋田 泉司	長 和彦	廣瀬 伸一	村瀬 雄二		
有賀 正	太田 節雄	北中 幸子	志水 哲也	長 秀男	廣津 卓夫	村田 要一		
有阪 治	太田 孝男	北本 育子	清水 俊明	塚田 明子	福重淳一郎	元山 福祥		
飯塚 幹夫	太田 秀臣	木野 稔	下条 直樹	辻 美代子	深澤 隆治	森 哲夫		
五十嵐 隆	大塚 晨	木村 宏	下村 国寿	土屋 與之	福永 慶隆	森内 浩幸		
池本 博行	大西 正純	楠田 聡	白井 真美	堤 裕幸	藤井 達哉	森尾 友宏		
石井 正浩	大野 耕策	楠原 浩一	白石裕比湖	鶴澤 正仁	藤枝 幹也	森川 昭廣		
位田 忍	岡田 純一	工藤 充哉	白川 嘉継	寺井 勝	藤岡 雅司	森口 直彦		
井田 博幸	岡田 満	工藤 協志	末延 聡一	寺門 道之	藤木 伴男	森下 秀子		
井田 孔明	岡部 一郎	久保 政勝	杉本 徹	寺田 春郎	藤田 弘子	守田 利貞		
板橋家頭夫	岡本 博文	倉辻 忠俊	杉本 久和	寺本 貴英	藤野 滋	森田 友明		
市田 路子	小川 俊一	小池 健一	鈴木 敏雄	戸荊 創	二村 真秀	森脇 浩一		
逸見 睦心	沖 潤一	小池 茂之	鈴木 康之	富沢 修一	船戸 正久	師井 敏裕		
伊藤 悦朗	小口 学	小泉 晶一	鈴木英太郎	永井 崇雄	船曳 哲典	八木 信一		
伊藤 末志	奥山眞紀子	小泉ひろみ	須磨崎 亮	永尾 尚子	舟本 仁一	安田 寛二		
伊藤 進	小栗 絢子	河野 幸治	清野 佳紀	永島 哲郎	平家 俊男	柳川 幸重		
伊藤 辰夫	小田 慈	河野 陽一	関 秀俊	中畑 龍俊	別所 文雄	柳澤 正義		
伊藤 保彦	小田切美知子	香美 祥二	関根 孝司	中原 智子	保坂シゲリ	藪内 弘		
伊藤 雄平	小館 三郎	神山 潤	瀬島 斉	成田 雅美	保科 弘毅	山内 穰滋		
稲垣 由子	小堂 欣彌	幸山 洋子	千阪 治夫	新津 直樹	細井 創	山川 毅		
稲葉 博士	小野 厚	興梠 ひで	高島 俊夫	西澤嘉四郎	堀川 玲子	山形 崇倫		
猪股 弘明	緒林 誠	児玉 浩子	高橋 協	西間 三馨	前川 喜平	山口 清次		
今井 秀人	賀川 治美	後藤 彰子	高橋 孝雄	新田 康郎	前多 治雄	山下 薫		
岩田 敏	加治 正行	後藤 敦子	高橋 勉	布井 博幸	前田 美穂	山城雄一郎		
岩田 力	勝部 康弘	後藤 雄一	滝田 順子	橋本 和廣	正木 拓朗	山田 恭聖		
岩元 二郎	勝又 正孝	小林 繁一	宅見 徹	長谷川奉延	松井 陽	山野 恒一		
内田 正志	加藤 達夫	小林 正夫	竹内 義博	羽田野爲夫	松尾 宣武	山本 圭子		
内田 祐子	賀藤 均	駒田 美弘	竹重 博子	服部 元史	松尾 雅文	山本 威久		
内田 和彦	加藤 誠	小山 典久	武知 哲久	花田 良二	松平 隆光	山脇 英範		
宇理須厚雄	加藤 正彦	小山 佳紀	竹広 茂子	馬場 常嘉	松永 伸二	横田 俊一郎		
江口 尚彦	加藤 陽子	斎藤 博久	竹村 司	濱本 邦洋	松林 正	横田 俊平		
衛藤 隆	金子 一成	嵯峨 六雄	田島 剛	早川 依里子	丸山 剛志	横谷 進		

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

エーザイ株式会社
MSD株式会社
杏林製薬株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
大正富山医薬品株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ
和光堂株式会社

協賛企業

※敬称略 五十音順

アステラス製薬株式会社
MSD株式会社
ジャパンワクチン株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
富山化学工業株式会社
日本イーライリリー株式会社
JCRファーマ株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

編集後記

平成27年度の研究助成金、海外留学フェロウシップ、優秀論文アワードが決定しました。それぞれ優秀な人材を得て、本財団の活動が着実に進展していることは喜ばしい限りです。改めて述べるまでもなく、小児医学研究は小児保健(child well-being)の基礎であり、小児科医の臨床研究を推進することは、なにかんずく重要な使命であると思います。

その担い手として、本財団は小児科医である、研究者に期待するところが大きいことは改めて述べるまでもありません。しかし、平成27年度研究助成金に応募され、首尾よく助成金を獲得された小児科医は相対的に減少傾向にあります。平成28年度には、多数の小児科医である研究者が意欲的テーマを応募されるよう期待します。

小児医学研究は岐路にあります。従来の生物学的疾患から、社会・生物学的疾患へ中心的課題が変わり、予防・臨床医学的統合や、国際的視点に立つ情報システムにも、小児科医のリーダーシップが求められています。その萌芽となる研究テーマが提案されることを期待します。(常務理事 松尾 宣武)